

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **04279915 A**

(43) Date of publication of application: **06.10.92**

(51) Int. Cl

**G06F 1/16**

**G06F 3/14**

(21) Application number: **02418766**

(71) Applicant: **TOSHIBA CORP**

(22) Date of filing: **27.12.90**

(72) Inventor: **SANO YOSHINOBU**

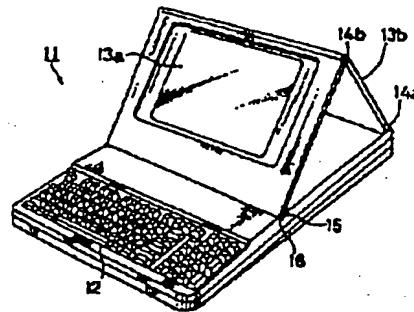
**(54) INTERACTIVE WORK STATION**

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

**(57) Abstract:**

**PURPOSE:** To perform counseling smoothly by easily showing effective information except for private information on the counsellor side to an opponent who receives the counseling without interrupting interactive environment with the consultee when life consultation or trouble consultation is performed by using a work station.

**CONSTITUTION:** Two display screens 13a, 13b developed and arranged at a position where can be visualized by different persons for a cabinet main body in confronting directions, respectively are provided. The counsellor can observe the display screen 13a on one side as operating a key input part 12, and also, the consultee who receives the counseling can observe the display screen 13b on the other side in a state where they are confronted with each other, respectively, and also, the information of different interactive formats are displayed on the display screens 13a, 13b according to the operation of the key input part 12, thereby, the more effective counseling can be performed.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-279915

(43)公開日 平成4年(1992)10月6日

(51)Int.Cl<sup>6</sup>

G 06 F 1/16

3/14

識別記号 庁内整理番号

3 4 0 A 8725-5B  
7927-5B

F I

技術表示箇所

G 06 F 1/00

3 1 2 F

審査請求 未請求 請求項の数1(全4頁)

(21)出願番号

特開平2-418766

(22)出願日

平成2年(1990)12月27日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区坂川町72番地

(72)発明者 佐野 岷信

東京都府中市東芝町1番地 株式会社東芝

府中工場内

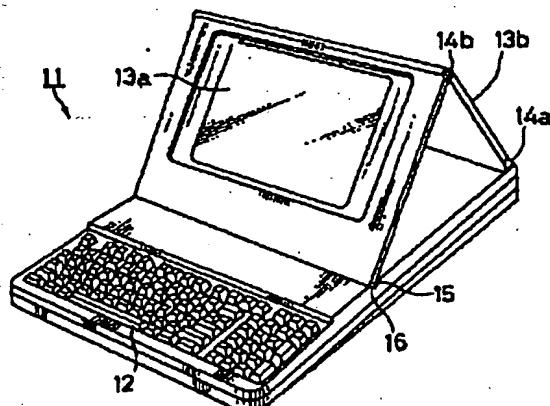
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【発明の名称】 対話型ワークステーション

(57)【要約】

【目的】 本発明は、ワークステーションを使用して人間相談や悩み相談等を行なう際に、相談相手との対話環境が中断されずに、カウンセラー側の専用情報を除く有用情報を容易に相手側に見せ円滑なカウンセルを行なうことを目的とする。

【構成】 箱体本体に対し異なる人物がそれぞれ相対する方向から視認できる位置に展開配設される2つの表示画面13a, 13bを備え、カウンセラーがキー入力部12を操作しながら一方の表示画面13aを、また、相談相手が他方の表示画面13bを、それぞれ向合った状態で見ると共に、キー入力部12の操作に伴い上記2つの表示画面13a, 13bにそれぞれ異なる対話形式の情報を表示させることで、より効果的なカウンセルが行なえる。



1

【請求項1】 壁体本体に対し異なる人物がそれぞれ相対する方向から視認できる位置に配設された2つの表示画面と、この2つの表示画面の一方に面する壁体本体に設けられたキー入力部と、このキー入力部におけるキー入力操作に伴い上記2つの表示画面にそれぞれ異なる対話形式の情報を表示させる対話情報表示手段と、上記2つの表示画面それぞれを有する表示板部を上記壁体本体に沿わせて折畳み式に格納させる表示部折畳み機構と、を具備したことを特徴とする対話型ワークステーション。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、人生相談や悩み相談等のカウンセラーを行なう際に効果的に使用される対話型ワークステーションに関するもの。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、ワークステーションをカウンセルに用いる場合には、予めそのカウンセルに必要なデータベースやカウンセルの手順等を作成格納しておき、カウンセラーが相談相手の話を聴きながら所定のキー入力操作を行なうことで、その際、表示画面に表示されるカウンセル情報に基づき相手方に対する解答の支援を得ていた。

【0003】 つまり、従来のカウンセルにおいて用いられるワークステーションは、カウンセラー専用の情報システムとして使用されていた。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来のワークステーションでは、カウンセラーがキー操作して表示画面を見て対話を行なうため、その対話環境が時々中断することがあると共に、言葉以外の有効な情報（例えば絵や動画）を表示画面を通して相談相手にも見せたい場合に、1つの画面を2人で見る必要があり、しかも画面上には相手方に見せたくない情報も表示されるため非常に不便であった。

【0005】 本発明は上記課題に鑑みなされたもので、相談相手との対話環境が中断されることなく、カウンセラー側の専用情報を除く有効情報を容易に相手側に見せ円滑なカウンセリングが可能になる対話型ワークステーションを提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 すなわち、本発明に係る対話型ワークステーションは、壁体本体に対し異なる人物がそれぞれ相対する方向から視認できる位置に配設された2つの表示画面と、この2つの表示画面の一方に面する壁体本体に設けられたキー入力部と、このキー入力部におけるキー入力操作に伴い上記2つの表示画面にそれぞれ異なる対話形式の情報を表示させる対話情報表示手段と、上記2つの表示画面それぞれを有する表示板部を上記壁体本体に沿わせて折畳み式に格納せる表

50

2

示部折畳み機構とを備えて構成したものである。

## 【0007】

【作用】 つまり、カウンセラーが上記キー入力部を操作しながら一方の表示画面を、また、相談相手が他方の表示画面を、それぞれ向合った状態で見れると共に、カウンセラー側及び相手側にそれぞれ必要な異なる情報を表示させることにより、より効果的なカウンセルが行なえることになる。

## 【0008】

【実施例】 以下図面により本発明の一実施例について説明する。

【0009】 図1は対話型ワークステーション11の構成を示すもので、同図において、12はキー入力部、13aは第1表示部、13bは第2表示部であり、キー入力部12は本体ケースの一端に沿って設けられ、該本体ケースの他端に沿った第1回動部14aを介して第2表示部13bが設けられる。また、この第2表示部13bの上記第1回動部14aとは反対側の第2回動部14bを介して第1表示部13aが設けられる。

【0010】 上記2つの表示部13a、13bは、それぞれ第1及び第2回動部14a、14bを介して折畳み式に構成され、本体ケースに沿わせて格納できるもので、この表示部13a、13bの展開時には、第1表示部13aの開放先端部15を、本体ケース表面のキー入力部12に平行にして形成した溝16に係合させることにより、第1表示部13aと第2表示部13bとが山形に展開され、異なる人物がそれぞれ相対する方向から視認できる位置に配設される。

【0011】 そして、上記第1表示部13aと第2表示部13bとは、それぞれ独立した表示制御部、表示パッファを有し、キー入力部12におけるキー入力操作に伴いそれぞれ異なる対話形式の情報を表示されるようシステム制御される。

【0012】 図2は上記対話型ワークステーションにおける表示部13a、13bの格納状態を示すもので、第1表示部13a及び第2表示部13bを対話型に展開させる場合には、まず、第1回動部14aを中心にして矢印Aで示すように表示部13a、13bの全体を持上げ、次に、第2回動部14bを中心にして矢印Bで示すように第1表示部13aを回動させ、そして、この第1表示部13aの開放先端部15を溝16に係合させる。すると、図1に示すように、第1表示部13aと第2表示部13bとは、異なる人物がそれぞれ相対する方向から視認できるように、山形に位置設定される。

【0013】 すなわち、上記2つの表示部13a、13bを対話型に展開した状態で、カウンセラーはキー入力部12を操作しながら第1表示部13aを見、相談相手には第2表示部13bを見させてカウンセルを行なうことにより、2人は常に対話しながらカウンセルを進めることができる。

3

【0014】つまり、カウンセラーは、相談相手と対話しつつキー入力部12を操作し、ワークステーション11に内蔵されたエキスパートシステムやデータベースシステムを駆使して、第1表示部13aにはカウンセル支援情報を、また、第2表示部13bには該カウンセル支援情報とは異なる、例えば相談相手の悩みを明らかにするための絵や動画等の情報を表示させる。この場合、言葉以外の視覚情報に基づき相手方の反応を探る等の効果的なカウンセルを行なうことができ、しかも、カウンセラー専用の支援情報は、相手方に見られずに済むことになる。そして、上記カウンセルに伴うカウンセリング情報は、順次カルテとしてワークステーション11に保存させ、次回の相談に役立てることができる。

【0015】したがって、上記構成の対話型ワークステーションによれば、相談相手との対話環境を常に維持させた状態で、円滑且つ効果的なカウンセリングが可能になる。

【0016】なお、上記対話型ワークステーション11は、その第1及び第2表示部13a、13bを、第1及び第2回動部14a、14bを介した折疊み機構により本体ケースに沿わせて格納できるので、容易に持運び移動利用することが可能である。

【0017】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、筐体本体に対し異なる人物がそれぞれ相対向する方向から視認で

4

きる位置に配設された2つの表示画面と、この2つの表示画面の一方に面する筐体本体に設けられたキー入力部と、このキー入力部におけるキー入力操作に伴い上記2つの表示画面にそれぞれ異なる対話形式の情報を表示させる対話情報表示手段と、上記2つの表示画面それぞれを有する表示板部を上記筐体本体に沿わせて折疊み式に格納させる表示部折疊み機構とを備えて構成し、カウンセラーが上記キー入力部を操作しながら一方の表示画面を、また、相談相手が他方の表示画面を、それぞれ向合った状態で見れると共に、カウンセラー側及び相手側にそれぞれ必要な異なる情報を表示させることにより、相談相手との対話環境が中断されることなく、カウンセラ一側の専用情報を除く有効情報を容易に相手側に見せ円滑なカウンセリングが可能になる。

【図面の簡単な説明】

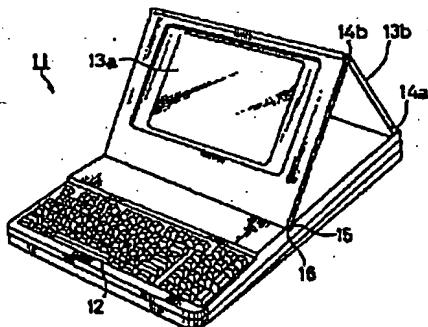
【図1】本発明の一実施例に係る対話型ワークステーションの構成を示す斜視図。

【図2】上記対話型ワークステーションにおける表示部の格納状態を示す側面図。

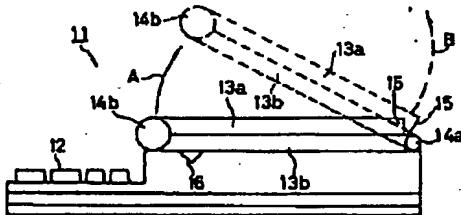
【符号の説明】

11…対話型ワークステーション、12…キー入力部、13a…第1表示部、13b…第2表示部、14a…第1回動部、14b…第2回動部、15…第1表示部の開放先端部、16…溝。

【図1】



【図2】



【手続補正書】

【提出日】平成4年3月3日

【手続補正1】

【補正対象審査類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 筐体本体に対し異なる人物がそれぞれ相

対する方向から視認できる位置に配設された2つの表示画面と、この2つの表示画面の一方に面する筐体本体に設けられたキー入力部と、このキー入力部におけるキー入力操作に伴い上記2つの表示画面にそれぞれ異なる対話形式の情報を表示させる対話情報表示手段と、上記2つの表示画面それぞれを有する表示板部を上記筐体本体に沿わせて折疊み式に格納させる表示部折疊み機構と、を具備したことを特徴とする対話型ワークステーション

(4)

特開平4-279915

ヨン。